



いしわら



2月号

令和8年1月31日
調布市立石原小学校
校長 飯島 慶裕

<http://www.chofu-schools.jp/isiwara-sho/>

大切なコミュニケーション

副校長 大賀 康行



相手の話を聞くことや自分の気持ちを伝えることは、学習の中だけで学ぶものではありません。登下校の様子、行事の準備、休み時間の何気ないやり取りの中でも、子供たちは多くのことを学んでいくように感じます。子供たちは、毎日の学校生活の中で、友達や先生と関わりながら、人との関わり方を少しづつ身に付けています。

「子供は、大人がしていることを、よく見て育つ」という言葉を聞いたことがあります。大人がどのような言葉を使い、どのような態度で人と向き合っているかは、思っている以上に子供たちの心に残っているものです。

金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」の詩の中で、「みんなちがって、みんないい」という一節があります。ひとそれぞれ考え方や感じ方が違うことを大切にする気持ちは、大人同士の関わりの中で子供たちに自然と伝わっていくのだと思います。

例えば、教職員同士が常日頃から連絡を取り合う姿や、行事の際に保護者の方がお互いに自然に声をかけ合ったり、意見が違っていても落ち着いて話し合ったりする姿を、子供たちはそばで見ています。その姿から、「人と話すことは大切なこと」「気持ちは言葉にして伝えていいのだ」ということを感じ取っているように思います。

教職員や保護者の方がお互いに挨拶を交わし、相手を思いやる言葉を使って関わる姿は、子供たちにとって大切なお手本になります。すぐに答えが出なくても、時間をかけて向き合う姿勢そのものが、子供たちの学びにつながります。

学校、家庭、地域がつながりながら、これからも一緒に子供たちの成長を見守っていきたいと思います。

持久走公開について

体育的行事委員 伊野 誠也

本校では、昨年度より、個に応じた体力を養う機会として、持久走(いしわランタイム)の取組を行っています。
2月7日(土)の公開日に向け、子供たちは体育の時間や休み時間にも颯爽と走り、練習を積み重ねています。

公開日は、本校校庭で、各学年に分かれて行います。低学年は3分間、中学年は4分間、高学年は5分間で、トラックを何周走ることができるか、個人の力を試します。一人一人が目標を立て、自分のペースで一生懸命走りきることができるように指導しています。公開日当日には、温かい御声援をどうぞよろしくお願ひいたします。

当日の日程、参観場所などの詳細につきましては、先日配布した「持久走公開のお知らせ」を御確認ください。(延期の場合は、7:30に「すぐーる」でお知らせします。)



◎ 学習指導要領では、「一定の速さでのかけ足（1・2年生…2～3分、3・4年生…3～4分）、無理のない速さでの持久走（5・6年生…5～6分程度）」となっています。同じ距離を走るマラソンでは、走るのが遅い子ほど大きな負担（以前のマラソン大会で、ゴールするまで14分半かかった児童がいました）となるとともに、国内の学校におけるマラソン大会本番や練習中に亡くなった事例も複数報告されております。本校では児童の安全を最優先に考え、令和6年度よりマラソン大会より持久走に変更して実施しておりますので、御了承ください。

